

ここ数日来、すっかり春めいてまいりました。近くの琵琶湖の湖畔では、河津桜がほころんでいるというニュースが入ってきています。この良きに日に、滋賀短期大学を卒業される266名の皆さん、誠におめでとうございます。私たち教職員にとりましても、大きな喜びといたすところでありまして、皆さんのご卒業を心からお祝い申し上げます。

最初に、ご来賓の皆様にお礼を申し上げたく存じます。公私ともどもご多用にもかかわらず、卒業生の前途を祝福していただくことになりまして、誠にありがとうございます。感謝申し上げます。また、保護者の皆様には、心からお祝いを申し上げます。立派に巣立とうとしておられるご様子に、お喜びもひとしおのことと存じます。誠におめでとうございます。

さて、卒業生の皆さん、皆さんにとっては2年間という短い修学期間でありましたが、卒業要件に加えて、免許や資格を取得するために努力されてきました。また、多くの方々が課外の活動においても励んでこられました。文化活動、スポーツ活動、そして学園祭を始めとする全学的な行事を支える活動においてです。また、地域の企業や自治体との連携において、先生方と一緒に活動している方々があります。ボランティア活動では各地を回っている人たちもいます。実にいろいろな活動に打ち込まれ、あれこれ追い求めているうちに、あっという間に卒業を迎えられたというのが、実感ではないでしょうか。こうした活動を通して体で覚えられたことは、これからの歩みのなかで必ずや生きてくると確信しています。

ところで、皆さんが踏み出される社会は混沌としており、先行きの見えない「不安な時代」、あるいは見通しのつきにくい「不確かな時代」ともいわれています。一方では、人工知能を軸にした急速な進展があります。もう10年もしないうちに、私たちの仕事の内容は大きく変わり、働き方そのものが変わるのではないかとみられるに至っています。しかし、いつの時代にあっても、新たな課題を抱えるでしょうから、それはそれとして受け止め、これからの巡り会う仕事にはしっかりと向き合っていきたいと願っています。皆さんは多種多様な仕事に就かれますが、元気よく踏み出していただけますように、3つのことについてお話をしたいと思います。

1つ目は、建学の精神である「心技一如」についてです。私たちが巡り会う仕事、生活の糧となる仕事、それがどういう仕事であろうとも、自分のために働くということを心に留めてください。言い換えれば、自分を磨くために働くということになります。自分を磨くということは、仕事を通してスキルを高めていく過程での「人となり」を指しています。このことについては、心を揺さぶられる言葉があります。卒業生にはいつも語っていることでもあります。それは、松下電器産業の創業者であり、亡くなっておられますが、松下幸之助さんの言葉であります。現在のパナソニックは、松下さんが大阪の町工場から世界の松下に導かれた企業です。その松下さんが、「松下はどういう会社ですか」と問われると、「松下は人をつくる会社です。そして、電気製品もつくっています」といっておられたのです。まず人づくりです。そのことによって良い電気製品を作ることができています。そのことで大きく成長してきた会社です。といっておられるのです。

社会に出ると、職業人として高いスキルを持っておられる方々は、人間としての品性や品格を併せ持つておられることに気づかれると思います。そこでです。仕事に就こうが、家庭に入ることになるのが、本学の建学の精神である「心技一如」を、生涯にわたっ

てのよりどころにさせていただくように願っています。心技の心は、心のはたらきとしての品格や品性を表しています。心技の技は、生きるすべとしての能力、職業人としてのスキルを指しています。心と技、こころとわざが相まって、「人となり」をつくっていきます。この「心技一如」の精神を、再び胸に刻んでいただきたいと念じています。

2つ目です。2つ目は巡り会う仕事への向き合い方についてです。皆さんは、数多くある仕事のなかから、これから勤めようとする仕事場に巡り会うことになります。そこでは、ある部署に配属され、担当する仕事が割り振られ、同僚、そして上司が決まります。そこで大切になることは、その仕事にどのように向き合っていけるか、どのように適応していけるか、ということになります。本学では、就職指導に役立てようとして、就職して3年目になる企業や教育関係機関に調査をお願いしていますが、その一端を紹介したいと思います。採用に当たって重視している項目についてですが、企業では誠実さ、社会的マナー、協調性が上位にあります。また、幼稚園や保育所では、今の3項目に加えて責任感が上位にあがってきます。このようなことから、仕事には誠実に向き合っていて、その過程では礼儀正しさや言葉づかいに留意し、同僚や上司と協調して、責任を持って仕事に取り組んでいただきたいということになります。

もう少し加えますと、仕事をしていく上での向き合い方についてですが、実業界で活躍されている方々は、どうも同じようなことをいっておられることに気づきます。それは、決して難しい能力ではなく、基本的な原理原則というのでしょうか、人間としての正しい生き方を指しておられます。例えば、京都セラミック株式会社、現在の京セラですが、その創業者である稲森和夫さんは、「人間として正しいことを正しいままに貫こう」ということを経営方針として据えられています。人間として正しいこととは、「嘘をついてはいけない」、「迷惑をかけてはいけない」、「欲張ってはならない」、「自分のことばかり考えてはならない」、「正直であれ」といったことをあげられているのです。そうしますと、職業人としてどう向き合っていくかについては、特別なところにあるのではなく、人間として正しいかどうかを判断基準にするという、身近なところにあることになります。

3つ目は、卒業生と一体となった短期大学づくりについてです。本学の母体である純美禮学園は、本年5月に創立100周年を迎えます。そして、短期大学は2年後に開学50周年を迎えます。このような大きな節目を迎えるにあたって、本学ではこれまでの教育研究から新たな方向性を目指して、地域との連携による教育研究活動を進展させるための基盤づくりに取り組んでいます。地域から迎える事業として、本学を会場にして公開講座や研修講座を開いています。迎える事業から出向く事業へと展開し、滋賀県内の市町の教育関係機関との共催による研修講座や教育講座を立上げ、また地域との共同研究の取組を広げています。このような連携活動においては、卒業生のリカレント教育を意図していることはもちろんですが、私たちの研究成果を地域の教育や研究に活用していこうとしています。本年度は全学的な取組として、3学科の先生方がご自分の専門性を活かして、幼児教育に関わる教材開発の取組を始めています。このような取組が食生活の分野、ビジネスの分野に進展させていければと考えています。

卒業生の皆さんさんには、時折、本学のホームページをのぞいてください。そして、参加できる事業には関わっていただき、「こんなことはどうでしょう。このようにしてはどうでしょう」と、声をかけていただきたいと願っています。卒業生と一緒に、地

域社会で活用できる教材などが提供できるようになればという、大きなロマンを描いています。このような地域連携事業を通して、名実ともに地域に根ざした短期大学として努力してまいりますので、卒業生の皆さんには社会人の立場から短期大学づくりの一翼を担っていただきますよう、切に願っております。

ところで、私たちが社会人として歩む過程では、実にいろいろなことに遭遇します。決して平坦な歩みとはなりません。つまずいて、転んでしまいます。でも立ち上がって、また歩き出します。これが、大人の歩みです。大人の歩みとはこういうことなんです。私自身を振り返ってみても、実に多くのつまずきがあります。その都度、「もう少し」、「もう少し」と、繰り返して歩んできています。イギリスの哲学者、トーマス・カーライトの名言があります。私のとても好きな言葉ですが、「経験は最良の教師なり」といっています。私たちが社会人として歩む課程では、そこでの経験が私たちを成長させてくれる最良の教師であるということになります。これまでに学んだ知識や技術は、新たな経験や体験を通して確かなものとなります。つまり、社会人としての新たな経験や体験が、これからの生きる力の源になるということの意味しています。

皆さんの中には、仕事に就く方ばかりでなく、4年制の大学あるいは専門学校に進学される方もいます。また、当面はアルバイト的に仕事に関わる人たちもいます。これまでお話をしたことは、新たな環境において、仕事であろうと、学業であろうと、その取組については同じであるということになります。新たな取組に向けては、決して慌ててはいけません。一歩、一歩です。しっかりと踏み出されますことを期待しています。

結びにあたり、このキャンパスで巡り会った学友の皆さんとは、暖かい関係性を持ち続けられますように願っています。この関係性がやがては強い絆となって、生涯にわたって支え、支えられるようになります。また、2年間の学びを支えていただいた教職員の方々に、そして今日まで何かと支えていただいた保護者の方々に、感謝の念を忘れずに実社会に踏み出してください。卒業される皆さんがやがて地域を支える一員となって活躍されますことを、そしてその前途に幸多からんことを祈念し、学長のおくる言葉といたします。

平成30年3月15日

滋賀短期大学学長 佐藤尚武